

---

# 「願いよ叶えっ！」 in グラインドハウス

不足茶野

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

「願いよ叶えっ！」 in グラインドハウス

### 【Nコード】

N6287L

### 【作者名】

不足茶野

### 【あらすじ】

お前の願いを一つ叶えてやろう。

世界平和から人殺しでも腹痛を治すでも。

ただし、マラソンで一位になったらね。

なにそれ？

## **(前書き)**

グラインドハウスとは

B級映画を複数立てて放映する映画館のことらしいですよ。  
ここでは適当でB級な小説を自分が楽しめます。

流れ落ちる脂汗。

オレは今、電車の中。

通勤ラッシュの真っ只中にいる。

ぶっちゃけ腹痛だ。

しかも、かなりヤバイ。

黄の門までうんこが迫っている。

まさか三十路で漏らすのか？

そうだ、ベルトを緩めよう。

いやいや、ベルトを緩めたらお腹の動きが活発になるではないか。

ベルトをきつく締めた。

おおっ、何とか回復。

数分後……

ぎゅるるるるゝ

やっぱりだ。

さっきのは単純に腹痛の波が引いただけだった。

また来たよビッグウェーブ！！

小麦色した小さなオッサンが波に乗ってくるゝっ！

駄目だ。

別の事を考えるのだ。

考 える の だ ！

そうだ、思い出に浸ろう。

そうだなあ。子供時代が良い。

ストレスの無いあの頃へ行こう。

ああ……浮かぶよ。友達の声が。

♪うーんこ、うんこ、うんこ、うんこ、うんこ、うんこ♪

げげっ、この歌は小学生の頃、下校の最中、便意が襲ってきたときに友達がオレを励ますため（余計便意を催したが）歌ってくれた応援歌！

駄目だ！

おい、括約筋！

オレの括約筋よ！

今こそお前の真価が試されるときだ！

でん部に意識集中！

うーん、うーん。

駄目だ掛け声で漏れそう。

あーん、あーん。

別の意味合いでお尻が開きそう。

だが力を入れると同時に頭がクラクラしてきた。

腹の激痛と我慢することで頭に血が上り、ぶっ飛ぶ寸前だ。

ああ……意識が飛びそう。

満員電車なのに……便意がもうそこまで来ているのに……

あああ……

『さあ、午前七時四十二分五十六秒記念！ 第12344552回  
神さマラソンinジャパンが始まろうとしています！』

は？　ここどこ？

目が覚め周りを見渡すとオレの周りを百人以上の老若男女が囲んでいた……というよりは人だかりの真っ只中にいるみたいだ。

人以外は黒く塗られた空間がオレたちをつつんでいる。

よくみれば、一本の道のようなものが伸びていた。

あたりを伺うと、みな、一様に手首、足首を回したり、屈伸運動したり、まるでウォーミングアップしているようだ。

『その通り！　今から始まるのは、神様マラソンですよ！』

なんだ、この頭の中で聞こえる声はっ！

どこから聞こえてるの？

『アナタの頭の中に話しかけてます。実況の仏陀と申します。以後、よろしく』

マジで！？

あの有名な仏陀！？

『まあ、そんなところ。今日も寝転んで実況しています』

寝釈迦ってそういうことなの？

『そんなことよりも、アナタは神さまマラソンの出場者に選ばれました』

マジで！？

……えーと、どういうこと？

『今から人殺し……じゃなくてマラソンをしてもらいます』

あゝ良かった。人殺しじゃなくて。

でも、なんで？

『神様の救いの手が伸びたからです。今アナタは神様の空間に移動しているのです』

マジで！？

『はい。このマラソンで勝ち残った一位の生き物には何でも願いを一つ叶えます』

マジで!?

『さつきから「マジで!？」ばかりですね、アナタ。いい加減にしないと地獄に落としますよ』

んな無茶苦茶な!

はあ……でもこの状況を見るにつけ、信じるしかないようだな……でも、マラソン苦手なんだよなあ……体力に自信ないし。

『ちなみに体力は関係ありません。願いに対する気持ちが強ければ強いほど早く走れるはずですよ』

マジで!?

『はい、地獄行き』

嘘、うそです!

今の無し!

練習、練習だからね!

つか、仏陀がなぜ閻魔様みたいなマネをするのですか?

『日本人には閻魔様やろ? そう言ったほうがビビるやろ、お前等なんか。冗談やで、冗談』

なんで急に方言っぽいしゃべりに?

しかも、上から目線。(仏陀だからいいのか?)

まあ、良いか。冗談でよかった。

とにかく、今からマラソンに参加すればいいんだな。

そして一位になればなんでも願い事が叶うと。

『便利だろ? 玉を七つ集める必要はないぞ』

さすが日本人对応だな。そこまでリサーチ済みか。しかし。

願い事が叶うのか。

なんにしようかな

やっぱり大金持ち?

きゅうるるるるるるるるるる

オレが感心した瞬間、再び腹へビッグウェーブが色黒の小さいおっさんのサーフィンを引き連れて襲ってきた。

「うおおおおおおお おおおつ!!!!!!」

忘れてた！

オレは今、満員電車の中で腹痛による脱糞と戦っていたのだ！  
くそっ……でも、こんな千歳一隅のチャンス逃すわけには……

『参加者の皆さんは至急スタート前に集まってください』

おおっ、いつの間にかスタートの予告が！

ぎやるるるるるゝ

「ふぎやあああああつ！！」

お腹の音が変わったよ！  
よりアグレッシブになったよ！

もう、内股でしか歩けないかも……

頑張れ自分！

頑張れ自分！

活躍しろ！  
括約筋！

その名の通り活躍しろ！

次々とスタート地点に集まる人達。

オレは多分最後尾になってしまった。

『位置について……』

あああつ、待って〜

『よい』

でちゃう！  
でちゃう！  
あふれちゃう！



『スタート!』

すると、オレを置いてドンドン先へ行く参加者達。

ああ、お金持ちになる夢がくくギャルルルウウくくく!

やべえ! メガトン級! 2メガシヨクツ! (子供にはわかりません)

しかも、音がカタカナになってさらに威力倍!

ああ……もうアナル、もとい、アヌスの門が開いてしまう……

駄目だ! 漏らしたくない!

神様! どうかこの腹痛を鎮めたまえくくっ!!

『うん、いいよ』

なっ!

また頭に声が届いたかと思うと、俺の足が勝手に動き始めた。

も、漏れる……ことはなかった。

足が信じられないぐらい回転しているのだ!

マンガなのだ! でも、これでいいのだ!

「ビュー——うわわわわっ——ユン!!」

ものすごいスピードで参加者集団に迫っていく。

シャツの脇がパタパタしている!

頬も風圧で揺れるううううううっ!

『さあ、便意をもよおしている、うんこ選手、集団の最後尾についた!』

おいっ、仏陀! っていうかうんこ選手って名前ついてるよ!

親が聞いたら泣くよ! 笑い過ぎて泣くよ!

『さあ、うんこ選手の前を走るのが犬のペロです!』

はあ? 犬? 犬まで参加してるの?

すると犬の声らしき音が頭に響く。

「ワンワン”あー交尾してえ”ワンワン」

……こんなのアリ?

犬の願いと一緒にされてたまるか！

『神様の前では犬も人間も変わり無いです』

そんなの知ったことか！

万物の長、人間様をなめるな！！

『さあ、猛然と迫るうんこ！』

『勝つのはうんこか？ ペロか？ うんこか？ ペロか？』

『うんこ！ ペロ！ うんこ、ペロ！ ペロ、うんこ！ ペロペロ  
うんこ！』

もう や め て え ！

オレの心のHPはゼロよっ！

だがさすがに動物。本能の願いは強いぜ。

『さあ、ペロペロうんこが一緒になって猛然と追い上げる！ 目の前に迫ったのはミュージシャン志望、漫画家志望、小説家志望、声優志望とあー、もうその他もろもろ志望する人間達だ！』

オレへ向かって志望どもは何かを叫んだ。

「ここは行かせねえぜ、うんこペロ！ 俺達だって日夜必死なんだ！ この機会に俺達の願いを叶えてもらうぜ！」

うんこでスッカリ定着してるし……

話を通じて嬉しい反面、何故だかいつ等には負けたくねえし、負ける気がしねえ！

「ワンワン”はあ？ ふざけんな！”ワンワン」

『これは意地の張り合いになるか？ ワナビどもの願いが勝つか、満員電車での便意が勝つか、見ものです！』

「ワンワン”お前たちに言っておく”ワンワン」

「なっ、なんだよ……」

犬が積極的に喋ってる？

「ワンワン”夢ってのはなあ、叶えてもらうものじゃねえ！ 『叶えるものだ！』”ワンワン」 ドーン！

犬、今良いこと言ったよ！

ワナビ達が心打たれたみたいな顔をしてるよ！  
でも、犬の願いは性欲にまみれてるからね！

「ペロさん……ふっ、どうやらオレ達は道を間違えたようだな。さらば！」

『ああと、そろそろワナビ達が脱落していく……！ うんこペロペロごぼう抜きだ！』

「ワンワン” あー、雌犬とやりてえ” ワンワン」

この犬、ただの犬ではない！

『さあ、前を走るランナーは政治家だ！』

「首相にオレはなるっ！」

お、男の野望だ。

っていうか、七時四十二分になんて願いを強く思ってるんだよ。

「私は一日一回鏡の前で『首相になる』と言い聞かせているんだ」  
自己啓発かよ！ ポジティブシンキングか！

「ワンワン” おい、その腐れ政治家” ワンワン」

「犬……だと？」

おお、またペロの名言か？

「クウーン” お前が首相になったら、生類憐みの令を復活させてくれ！” クウーン」

お犬様キター！

何気にのし上ろうとしてるよ！

性欲も出世欲も旺盛だよコイツ！

「ふん、お主も悪よのお」

「クンクン” お代官様ほどでは……” クンクン」

やばい、なんか二人で話が噛み合ってきている。

ここはオレが何とかしないと！

「おい、政治家！ お前は間違っている！」

「ぬ？」

「ワン？」

「首相になるのがお前の望みなのか？　ふっ、それじゃあ二流だな」  
「なんだと？」

わっ、怖い顔で睨んでるよ。

でも負けんっ！！

ギュンギュンギルルルルルン！

久しぶりに来たっっ、腹痛のびっぐうえっぶっ！

「一流の政治家の目標は首相になることでも権力を握ることでもねえ！」

「言わせておけば小僧……」

腹痛に比べれば、この政治家など怖くない！

「本当の政治家とは国家、ひいては国民が幸せに暮らせる土台を作ることを目的としなければならない！　ポストにしがみつくお前に未来はないっ！」

「ぐぬぬぬ……」

『ああと、政治家が一気に下がっていく！』

よし、やった！

「くっ、このままでは終わらんぞ！　ワシの願いは今日から国民の幸せ——ああああああっ！」

『ああと、宣言した途端、米粒大まで後退した！　やはり嘘はいけません！　嘘は！』

「よしっ！」

「ワンワン」でかした、うんこ！　ワンワン」

テメエ、一時期はアイツに媚売ったくせに！！

『さあ！　うんペロがどんどん追い上げるっ！』

もう、犬と一緒にされている……

『うんペロが向かうのは……なんと!』

「ラブ アンド ピース!」

『おおっと、世界平和だ! 世界平和を願う集団が前に立ちほだかるっ!』

「せ、世界平和……だと? 本当にできるのか? そんなこと」

『できます! 神様だからできます!』

やべえ……願いとしては個人的でもないし、非難もできねえ。

しかも、オレはこの素晴らしい願いに負けても良いと思っている。  
「ワンワン” ああ、ムラムラするワン” ワンワン」

……やはり、犬か。

世界平和など、どうでもいいのか……

うーん、世界平和のためだったら漏らしても良いのではないか。

「世界平和」と「皆が見てる前での脱糞」

どちらの優先順位が高いといえば……

いえば……

いえば……

いえば……

うーん……

『ああつと、自然にうんこが世界平和を上回っていくぞ。なんでだ? どうやら午前八時前に本気で世界平和を願う人間はいないようだ……ははは。日本人なんてこんだもんだ!』

なんか、仏陀なのに酷くね?

『勝ったのは、うんこ! 便意が世界平和に勝ってしまった!』

まるでオレが悪いことしたみたいじゃないか!

『お前の便意のせいで世界平和が遠くなってしまった!』

『お前の便意のせいで世界平和が遠くなってしまった!』

うるさいなあ、この仏陀。



その犬はペロじゃない……エロだ！  
いや、雌犬をペロペロしたいんだぞ！

「ワンワン」おい、うんこ」ワンワン」

犬にまでうんこ扱い？

「ワンワン」どうやら俺はここまでのようだ」ワンワン」  
は？ どうしたんだよ急に。

「ワンワン」願いが変わったんだ」ワンワン」  
なんだと？

「ワンワン」この少年と一緒に暮らしたい」ワンワン」  
ペ、ペロ……

「ワンワオ」一緒に暮らせれば……食には困らない」ワオワン」  
食欲って……結局、欲望か！

「ワオワオ」そして、この少年……いや、御主人様の股間もクンクンしたい」ワオワオ」

股間って……最悪だなお前。

「ワオーン」じゃあな、うんこ。願いを叶えろよ！」ワオーン」  
するとペロは少年へと駆け寄った。

「わぁーい、ペロだ！ よしよし、良い子だね」

この空間でもじゃれ合えば子供の興味はそがれる。

ペロと少年は一気に遠ざかって行った。

「うわっ。ペロ、止めてよ。そんな股間めがけて……ああっ！」  
……お幸せに。

勝った……

動物の欲望も  
若者の夢にも





ko!

オレはうんこって名前じゃねえ！  
合いの手もいらねえ！

だが、殺人氣には必ず勝つ！

これで勝たなきゃ……

勝たなきゃ……

オレはタダの糞野郎だぜっ！！

『そして一気に捲くるっ！！』

ああ……風を感じる。

これが先頭を走るってことか。

ううっ……腹が冷える。

『一気に並ぶ暇もなく抜き去ったああああっ！！！！』

さあ、最後のコーナーを曲がった。

やった！ オレの勝利だ！

つか、便意の勝利だ！

一瞬においては便意がどの願いよりも勝るっ！

お前らの願いなんてその程度だ！！

『おおっと、ここで後ろから数人が猛然とトップに襲い掛かるぞ！』  
なぬ？

『彼等も便意をもよおした人間たちだ！』

みな一様に前を押さえているっ！

小だ！ 彼らは小を我慢しているぞ！！

後は便意を催した人間だけだ。

皆、糞尿だらけ。

『大か？ 小か？ 大か？ 小か？ 大か？ 小か？ 大か？ 小か？ 大か？ 小か？ 大か？ 小か？』

「うううおおおっ!! 満員電車で超過酷くくっ!!」

『うんこが一気に抜き出たー!ー!ー!』

オレはどうとうゴールテープを切った。

『ゴール!! 優勝は大です! うんこです!』

嬉しいような嬉しくないような……

ぐったりとへたりこむオレ。

そしてまばゆい光りが上空にさし、光の中から寺なんかでみる大仏のような神様が下りてきた。

ねえ。これって神様なの?

仏様なの? どっち?

『うんこよ』

神様まで「うんこ」呼ばわりですか……

でも、これで願いが叶うんだ!

ドキドキ。

来るか?

大願成就来ちゃうのか?

『おめでとう。願いをかなえよう』

本当に?

マジで!?

『……チッ』

——あっ!!

『はい、「マジで!?’」って言ったから地獄行き』

マ〜ジ〜で〜!?

ぎゅるるるるるるるるるるる〜んっ!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6287/>

---

「願いよ叶えっ！」 in グラインドハウス

2010年10月8日14時55分発行